

西部開発事業（畑地帯総合土地改良事業）

—緊急発掘調査報告—

# 南小出南原・細ヶ谷A遺跡

1980

伊那市教育委員会  
南信土地改良事務所

## 序

伊那市西春近地区は、昭和47年度より畑地帯総合土地改良事業（県営圃場整備事業）を行ってきた。この南小出地籍、南小出南原遺跡、細ヶ谷地籍、細ヶ谷A遺跡の緊急発掘調査も、この事業の一環として、南信土地改良事務所の委託によって、昭和54年度事業として実施したものである。

この地籍は西方の西駒ヶ岳の前山である権現山麓の峰々を仰ぎ見、北は戸沢川、小戸沢川、南は犬田切川、東は天竜川の清流を見降す段丘上に展開する風光明媚の地である。

今回の調査結果としては、限定された地域だったので、その成果ではわずかに遺物の出土があったが、全面的な調査をしたならば、遺構はあったと思われた。

この調査にあたっては、団長に友野良一先生をお願いして調査団を編成し、発掘を実施したわけではありますが、調査団の先生方の献身的な御努力と、西春近地区の皆様のご協力とによって、無事終了でき、まことに喜びにたえません。

ここに調査報告書を発刊するにあたって、南信土地改良事務所をはじめ、県教育委員会、調査団の諸先生、地元西春近の皆様に、改めて深甚なる謝意を表す次第であります。

昭和55年3月4日

伊那市教育委員会

教育長 伊 沢 一 雄

## まえがき（南小出南原・細ヶ谷A遺跡の環境）

### 位 置

南小出南原遺跡は長野県伊那市西春近南小出、細ヶ谷A遺跡は西春近細ヶ谷に位置している。

遺跡地に至るまでの道順は飯田線下鳥駅で下車して、駅前の大きな道路（信盛寺の案内のある所）を西へ50m程行くと二叉に別れる所がある。この別れる所で左折して急傾斜面を登り切った平坦な面が南小出南原遺跡である。細ヶ谷A遺跡は先に述べた二叉の道路を右に進路をとって、西方へ500m程坂道を登り切ると信盛寺がある。信盛寺の西側の近年開通した大規模農道を北へ向って行くと、左手に共進会と呼ばれている会所がある。この所を西へ向って100m程登り切った小戸沢川に面した場所が遺跡地である。

### 地形・地質

今回の南小出南原遺跡、細ヶ谷A遺跡は今までに発掘してきた近くの遺跡と地形・地質に関しては大差がないので、それを使用させてもらうことにする。

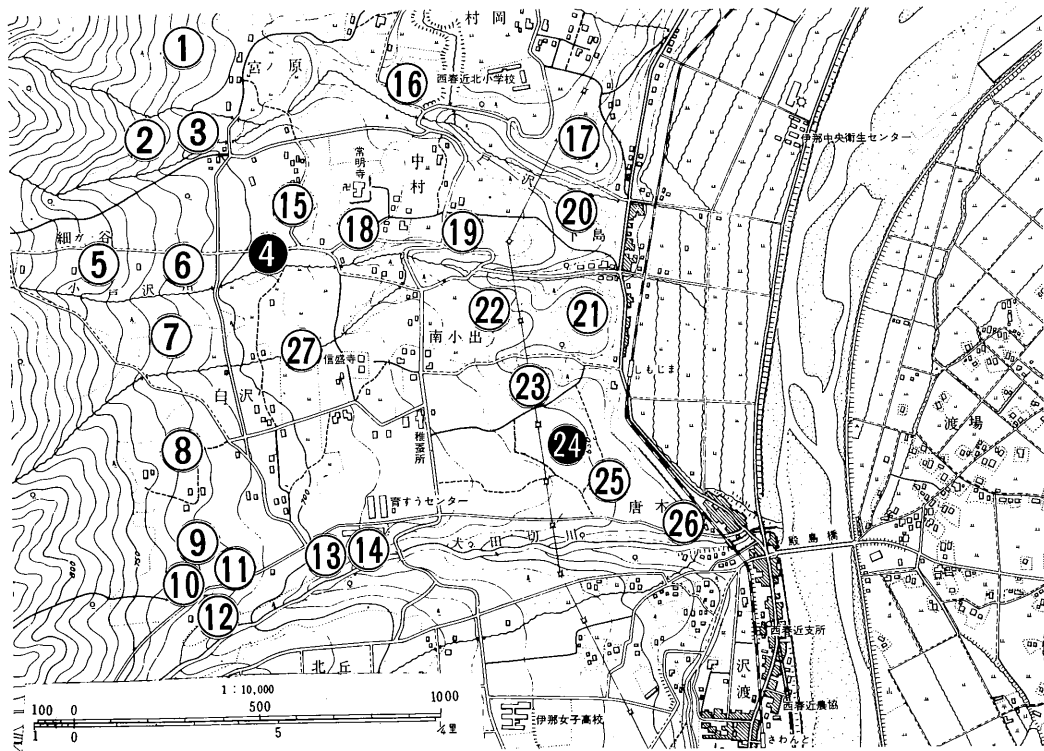
今までに西春近地区についての地形、地質について述べられているのを参考にして述べてみることにする。『伊那谷に一般的に通ずる地形は西に、中央アルプス、東に南アルプス、その前山である伊那山脈とにはさまれた南北に細長い盆地状地形を呈している。中央の最低部に源を諏訪湖に持つ天竜川が流れ、一般的によばれている縦谷状地形を成している。さらに本流である天竜川の両岸には数多くの小河川があり、それらによって形造された大小の扇状地、河岸段丘、溪谷が展開している。伊那市附近では小沢川・三峰川・小黒川が主たる河川であり、これらは同様に大きな段丘や扇状地を形成した要因となっている。』（眼子田原遺跡報告書による）

南小出南原遺跡は天竜川右岸第2段丘、犬田切川左岸段丘、山麓扇状地の末端という三条件の重なった地点に存在し、標高は670m～680m前後に位置している。現況は畑や桑畑に利用されている。表土面よりローム層面までは浅いところで30cm、深いところで1m程あった。遺跡地の一带はいわゆる解析地形の典型的なよころである。

細ヶ谷A遺跡は小戸沢川左岸段丘面、山麓扇状地の中央部附近に該当し、標高は690～700m前後に位置している。山の押し出しが多く、表土面から30cm位で細礫を含む青ネバ層が見える。この一带の礫はホルンヘルスの産地として有名な所である。

## 歴史的環境

西春近中部地区の現在確認されている遺跡数は26ヶ所を数える。遺跡名は略とする。大境は縄文早、中後、晩期、奈良・平安時代、中世、百駄刈は縄文早、前、中、晩期、奈良・平安時代、中世、中原は縄文後期、細ヶ谷Aは縄文中期、西垣外は縄文中期、細ヶ谷Bは縄文早、前、中、後、晩、奈良時代、山寺垣外は縄文前、中期、中世、白沢原は縄文中期、奈良・平安時代、名廻は縄文早、中期、奈良・平安時代、名廻西古墳は横穴式石室、名廻東古墳は奈良時代、名廻南は縄文早、前、中期、奈良、平安時代、鎮護塚東古墳は横穴式石室、鎮護塚西古墳は横穴式石室、宮の原は縄文中期、小出城は縄文早、前、中、後、中世、村岡南は縄文中期、中世、浜射場は縄文前、中期、中村は縄文中期、中村東は縄文中期、弥生後期、奈良・平安時代、中世、楽師堂は縄文中期、奈良・平安時代、中世、カンバ垣外は縄文前、中期、奈良時代、中世、丸山は縄文中期、中世、南小出



位置及び西春近中部地区遺跡分布図

### 遺跡の名称

- |         |         |      |        |        |        |
|---------|---------|------|--------|--------|--------|
| ①大境     | ②百駄刈    | ③中原  | ④細ヶ谷A  | ⑤西垣外   | ⑥細ヶ谷B  |
| ⑦山寺垣外   | ⑧白沢原    | ⑨名廻  | ⑩名廻西古墳 | ⑪名廻東古墳 | ⑫名廻南   |
| ⑬鎮護塚東古墳 | ⑭鎮護塚西古墳 | ⑮宮の原 | ⑯小出城   | ⑰村岡南   | ⑱浜射場   |
| ⑲中村     | ⑳中村東    | ㉑楽師堂 | ㉒カンバ垣外 | ㉓丸山    | ㉔南小出南原 |
| ㉕唐木原    | ㉖唐木古墳   | ㉗児塚  |        |        |        |

南原は縄文中期、弥生後期、奈良時代、中世、唐木原は縄文前、中期、奈良、平安時代、唐木古は横穴式石室である。児塚は縄文早、前、中、後、晩期である。

これらの遺跡のなかで発掘調査されたのは中央道関係では昭和47年度中に実施された大境遺跡(註1)百駄刈遺跡、細ヶ谷B遺跡、山寺垣外遺跡、白沢原遺跡、名廻遺跡、名廻東古墳、名廻南遺跡、土地改良事業は昭和49年度の村岡南遺跡(註2)、昭和52年度の宮の原遺跡(註3)、中村遺跡(註4)、昭和53年度のカンバ垣外遺跡(註5)、児塚遺跡(註6)、昭和54年度の丸山遺跡(註7)、細ヶ谷A遺跡(註8)、南小出南原遺跡(註9)である。

大規模農道関係では昭和49年度の小出城遺跡(註10)、浜射場遺跡である。昭和52年度の児塚遺跡(註11)である。カントリー設備工事事業として昭和51年度浜射場遺跡(註12)である。工場団地としては昭和49年度のタカノ工場誘致(註13)である。(飯塚政美)

## 参考文献

- (註1) 長野県中央道埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書 - 伊那市西春近 - 昭和47年度  
日本道路公団名古屋支所・長野県教育委員会 刊
- (註2) 西部開発事業(畑地帯総合土地改良事業)緊急発掘調査報告 東方A・村岡北・村岡南・  
常輪寺下・北条遺跡  
1975年 伊那市教育委員会・南信土地改良事務所 刊  
報告書のなかでは村岡南遺跡として取り扱っている。
- (註3) 西部開発事業(畑地帯総合土地改良事業) - 宮の原遺跡  
1978年 伊那市教育委員会・南信土地改良事務所 刊
- (註4) 西部開発事業(畑地帯総合土地改良事業) - 緊急発掘調査報告 - 中村遺跡  
1978年 伊那市教育委員会・南信土地改良事務所 刊
- (註5) 西部開発事業(畑地帯総合土地改良事業) - カンバ垣外遺跡  
1979年 伊那市教育委員会・南信土地改良事務所 刊
- (註6) 西部開発事業(畑地帯総合土地改良事業)児塚遺跡  
1979年 伊那市教育委員会・南信土地改良事務所 刊
- (註7)、(註8)、(註9) 昭和54年中に発掘調査を実施し、昭和55年3月報告書を刊行する。  
註8、註9は本報告書である。
- (註10) 小出城(城南)・浜射場遺跡(緊急発掘調査報告書)  
1975年 伊那市教育委員会 南信土地改良事務所 刊
- (註11) 緊急発掘調査概報 - 児塚遺跡  
1978年 伊那市教育委員会・伊那市建設部土木課 刊
- (註12) 緊急発掘調査報告書 - 浜射場・菖蒲沢遺跡  
1977年 伊那市教育委員会・伊那市農業協同組合 刊
- (註13) 南小出南原遺跡 - 緊急発掘調査報告書 -  
1978年 伊那市教育委員会・タカノ株式会社 刊

# 凡 例

1. 今回の発掘調査は西部開発事業に伴う、土地改良事業で、第7次緊急発掘調査にもとづく報告書とする。
2. この調査は、県営畑地帯総合土地改良事業に伴う緊急発掘で、国・県・市の補助金のもとに、事業は長野県南信土地改良事務所の委託により、伊那市教育委員会が実施した。
3. 本調査は、昭和54年度中に業務を終了する義務があるため、報告書は図版を主体とし文章記述もできるだけ簡略にし、資料の再検討は後日の機会にゆずることにした。
4. 本文執筆者は、次のとおりである。担当した項目の末尾に氏名を記した。

飯塚政美 友野良一

◎ 図版作製者

○ 遺構・遺物及び地形

友野良一 根津清志 小木曾清 飯塚政美

◎ 写真撮影

○ 発掘及び遺構・遺物

友野良一 根津清志 小木曾清 飯塚政美

5. 本報告書の編集は主として、伊那市教育委員会があたった。

# 南小出南原遺跡

## 目 次

序	
凡 例	
目 次	( 1 )
挿図目次	( 1 )
図版目次	( 1 )
<b>第 I 章 発掘調査の経過</b>	(2～3)
第 1 節 発掘調査の経緯	( 2 )
第 2 節 調査の組織	(2～3)
第 3 節 発掘日誌	( 3 )
<b>第 II 章 遺 構</b>	(4～5)
<b>第 III 章 遺 物</b>	( 5 )
第 1 節 土 器	( 5 )
第 2 節 石 器	( 5 )
<b>第 IV 章 ま と め</b>	( 6 )

## 挿 図 目 次

第 1 図 発掘地点及び地形図	(4)
第 2 図 石器実測図	(5)

## 図 版 目 次

図版 1 遺跡全景
図版 2 グリット全景
図版 3 遺物出土状況

# 第 I 章 発掘調査の経過

## 第 1 節 発掘調査の経緯

西春近地区の西部開発事業（県営畑地帯総合土地改良事業）は昭和48年度の上島、東方部落、昭和49年度の東方、村岡、城、山本部落にわたって行われてきました。昭和51年度は沢渡の上段（眼子田原）地区が該当しました。昭和52年度は南小出、宮の原、中村部落にかけて行われました。昭和53年度は柳沢地区と白沢、南小出地区が該当し、昭和54年度は諏訪形の菖蒲沢遺跡、山の下遺跡、南小出の南小出南原遺跡、細ヶ谷の細ヶ谷A遺跡が該当しました。

発掘着工以前に南信土地改良事務所より委託する旨が伊那市教育委員会へ通知されました。市教育委員会では、その件について承諾しましたので、市教育委員会を中心に、南小出南原遺跡発掘調査会を結成し、この中に調査団を含めて業務を行うことにしました。

南信土地改良事務所長と市長との間で「埋蔵文化財包蔵地発掘調査委託契約書」を締結し、契約後、ただちに発掘準備にとりかかった。

## 第 2 節 調査の組織

### 南小出南原遺跡発掘調査会

#### 調査委員会

委員長	伊沢 一雄	伊那市教育委員会教育長
副委員長	福沢総一郎	伊那市文化財審議委員会委員長
委員	赤羽 映土	伊那市教育委員長
〃	向山 辻雄	南信土地改良事務所長
調査事務局	北村 忠直	伊那市教育委員会前教育次長
〃	三沢 昭吾	〃 教育次長
〃	石倉 俊彦	〃 社会教育課長
〃	有賀 武	〃 〃 課長補佐
〃	米山 博章	〃 〃 前係長
〃	武田 則昭	〃 〃 係長
〃	沖村喜久江	〃 〃 主事

#### 発掘調査団

団 長	友野 良一	日本考古学協会会員
副 団 長	根津 清志	長野県考古学会会員
〃	御子柴泰正	〃
調 査 員	飯塚 政美	〃



調査員	福沢 幸一	長野県考古学会会員
〃	田畑 辰雄	〃
〃	小木曾 清	宮田村考古学友の会会長
〃	春日 徳明	大正大学学生

### 第3節 発掘日誌

昭和54年12月18日 発掘調査ができるように発掘器材及びテントを運搬する。

昭和54年12月19日 昨日、運搬したテントを建てる。さらに発掘器材の点検や修繕をして、明日からの作業に支障のないように万全を期す。

昭和54年12月20日 本日より本格的な発掘調査を実施する。まずグリットを設定する。グリットは1辺を2m×2m、面積を4㎡と決め、A1より掘り始める。1つ置きに掘っていってみると、基盤が北から南へ傾斜しているために、耕土も同様の状態を成していた。ローム層までの深さは浅いところで30cm、深いところでは1m50cm程もあった。一日中掘ってみたが、遺物の出土はほんのまれであった。

昭和54年12月21日 昨日、同様にグリット掘りを進めていくが、遺構の検出は何もみられなかった。ただ、遺物はわずかに出土した。

昭和54年12月22日 グリット掘りを東、南へと進めて行くが、遺構の検出は見られず。

昭和54年12月23日 グリット掘りを東、南へと進めて行くが、遺構の検出は何もみられず、一応本日をもって設定したグリットの全てを掘り尽す。

昭和54年12月24日 発掘調査のあとかたづけをする。

昭和54年12月28日～昭和55年1月10日 発掘調査の整理作業を行う。

昭和55年1月～2月 遺構・遺物の整理、図面、図版の作製、報告書の作製、編集、報告書を印刷所へ送る。

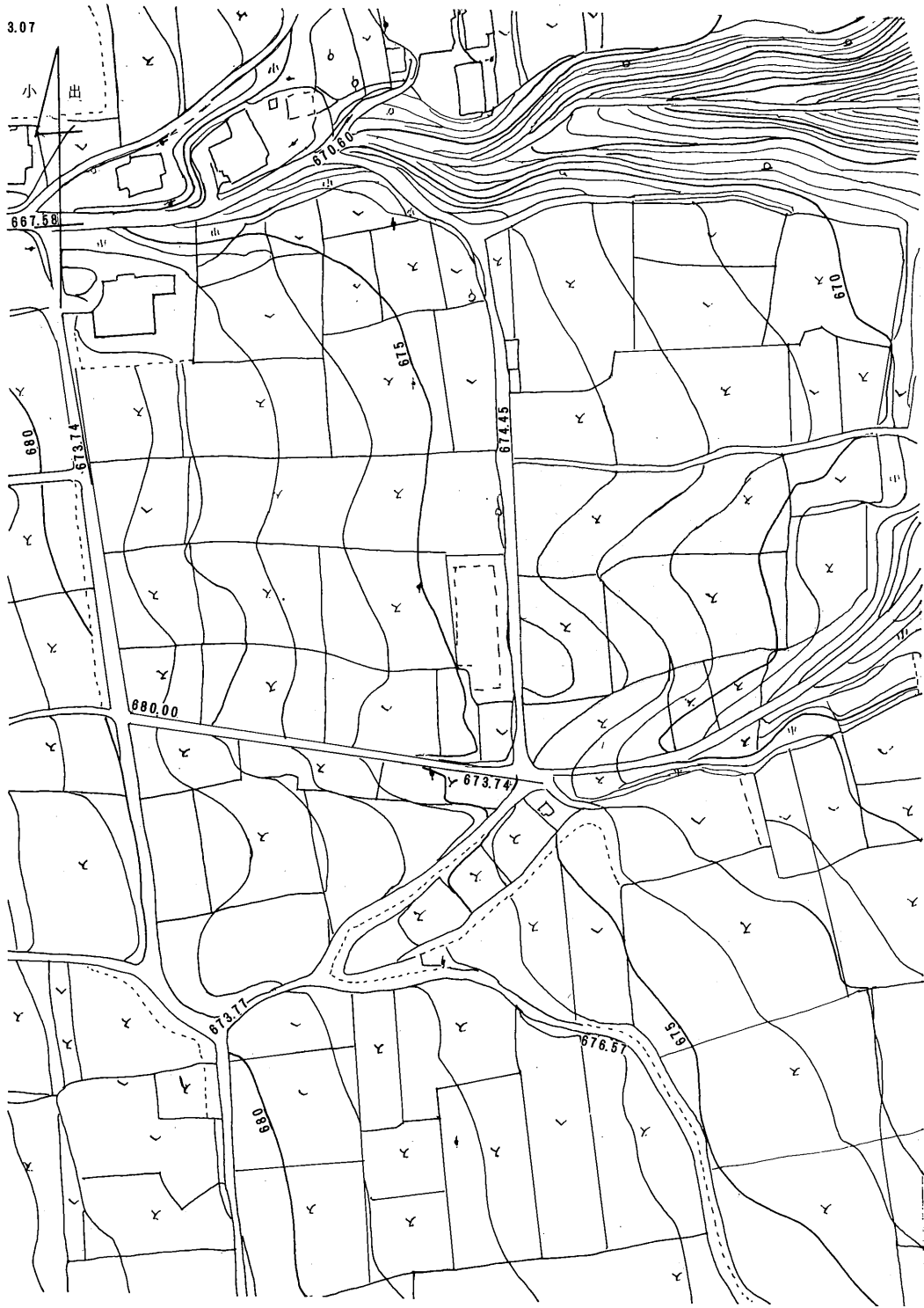
昭和55年3月 報告書の刊行。

(飯塚政美)



発掘風景

# 第II章 遺 構



第1圖 発掘地点及び地形図 (1:1500)

## 第II章 遺 構

今回、圃場整備地区内で大幅に土地造成をする地区を発掘調査を実施したが、遺構の検出は何もなかった。他地区を発掘調査すれば遺構の検出はみられると思う。(飯塚政美)

## 第III章 遺 物

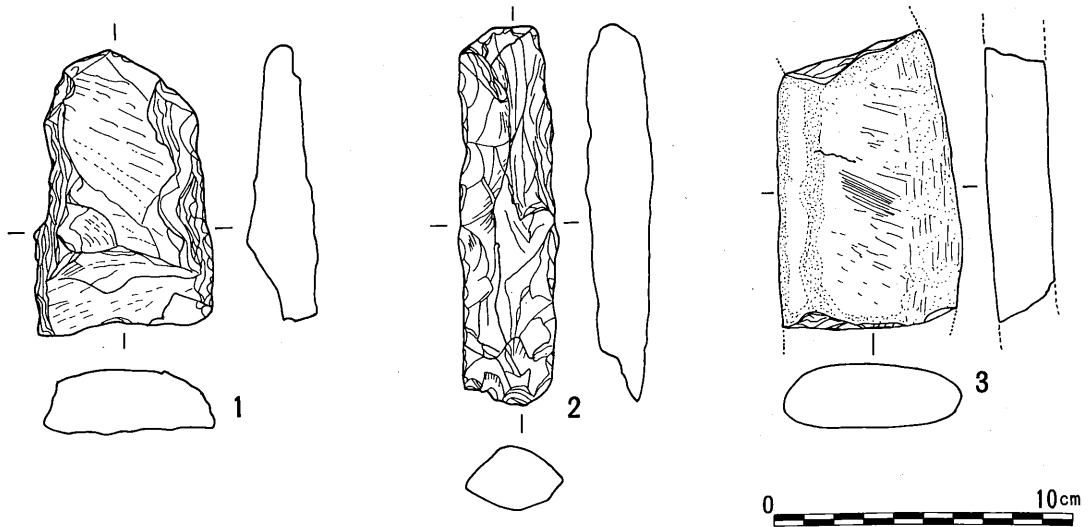
### 第1節 土 器

今回の調査では土器の出土は何もなかった。

### 第2節 石 器

今回の発掘で出土した石器の総数は全部で3点ある。(1~2)は打製石斧であり、石質はともに緑泥岩を利用してある。(1)は撥形、(2)は短冊形を成し、(1)の調整は周囲に集中しているのは対し、(2)は調整が全面に及んでいる。

(3)は磨石で、硬砂岩を利いて加工してある。上下部は欠損しているが、磨石の大きさとしては普通である。重量は260gを測定できる。(飯塚政美)



第2図 石器実測図

## 第Ⅳ章 ま と め

今回の発掘調査の契機は畑地帯総合土地改良事業（県営圃場整備事業）地区内に該当するとのことで、発掘調査を実施したわけであるが、この地区は全面的な土地改良ではなく、道路敷だけの耕地整理で、部分的な移動計画となった。これにともなって、発掘調査地区も限定され、その成果については先に述べたような状況となった。その主たることを記してみると、遺構の検出は何も認められなかった。遺物としては打製石斧3点の出土に留まった。

この南小出南原遺跡は昭和49年5月(註1)に、一度発掘調査を行ったが、その成果は弥生時代後期の方形周溝墓1基、平安時代の住居址2軒、中世の柱穴群1、堀址1の検出をみたわけである。従って、今回、全面的な調査を行えたならば、前述した遺構に関連する何かの検出があったものと思われる。

終わりに当り、当遺跡調査に全面的に御協力いただいた、南信土地改良事務所、調査実施について、積極的に推進された地元土地改良区役員の方々、並びに伊那市教育委員会職員一同、発掘現場の調査団の長として労作され、責任を果たされた友野良一団長、他調査員御一同、さらに直接発掘に精を出して下さい、作業員の皆様一同に深甚の謝意を捧ぐる次第であります。

(飯塚政美)

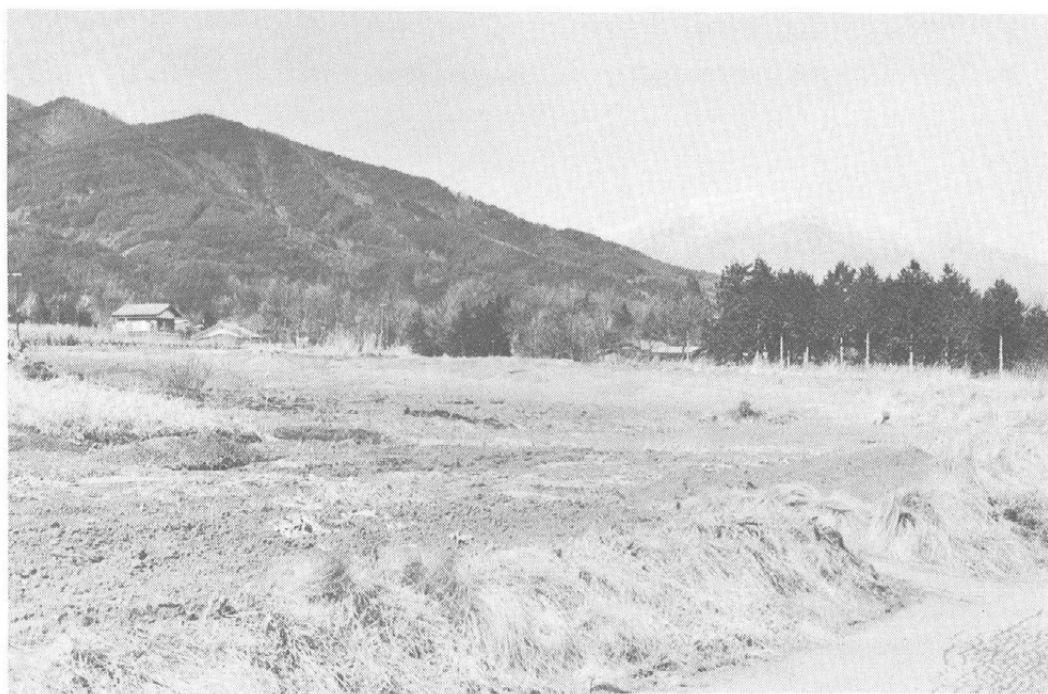
### 参考文献

— 緊急発掘調査報告書 —

註1〔南小出南原遺跡〕伊那市教育委員会・タカノ株式会社(昭和53年刊)



遺跡地を西側より眺む



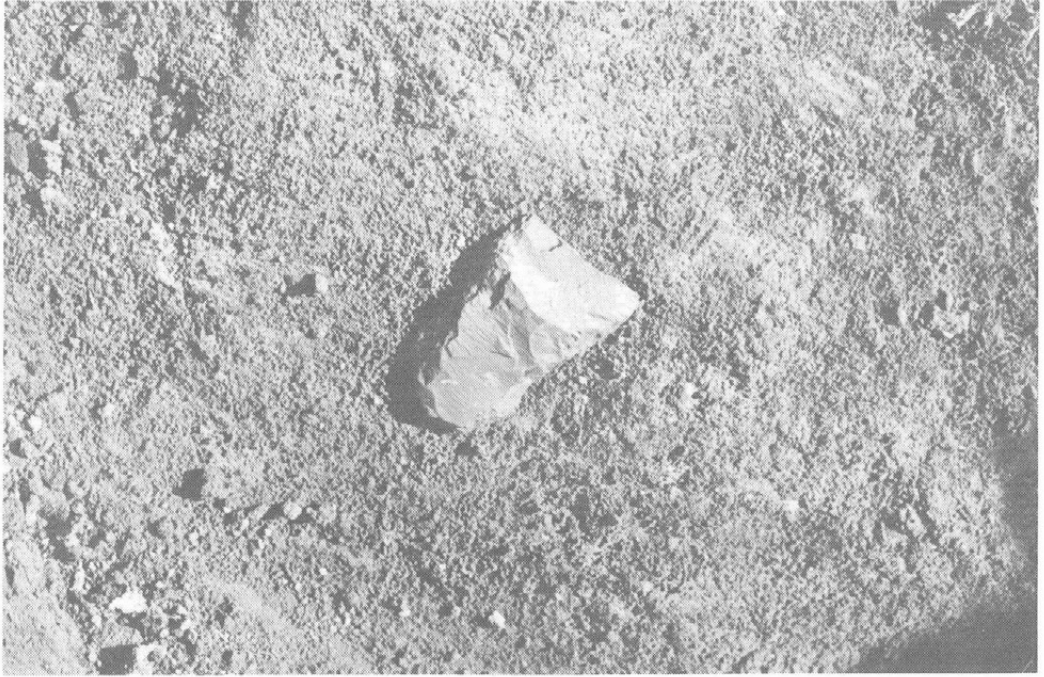
遺跡地を南側より眺む



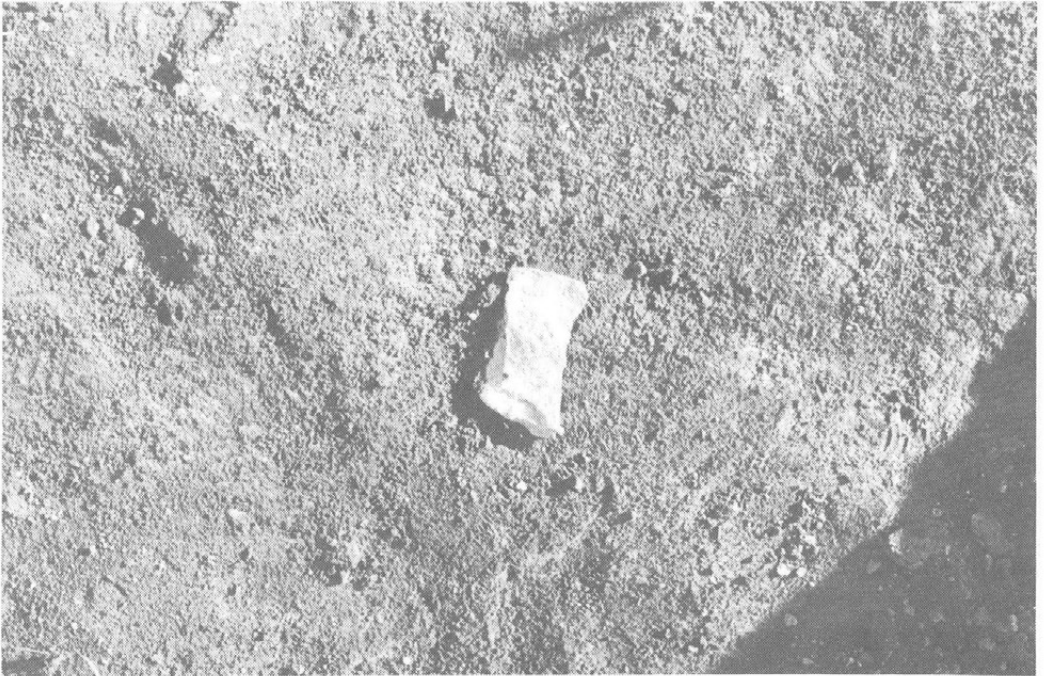
グリット全景



グリット全景



石器出土狀況



石器出土狀況

図版3 遺物出土狀況

# 細ヶ谷 A 遺跡

## 目 次

目 次	( 1 )
挿図目次	( 1 )
図版目次	( 1 )
第 I 章 発掘調査の経過	( 2 ~ 3 )
第 1 節 発掘調査の経緯	( 2 )
第 2 節 調査の組織	( 2 ~ 3 )
第 3 節 発掘日誌	( 3 )
第 II 章 遺 構	( 4 ~ 5 )
第 III 章 遺 物	( 5 )
第 1 節 土 器	( 5 )
第 2 節 石 器	( 5 )
第 IV 章 ま と め	( 6 )

## 挿 図 目 次

第 1 図 発掘地点及び地形図	( 4 )
第 2 図 石器実測図	( 5 )

## 図 版 目 次

図版 1	遺跡全景
図版 2	グリット全景



# 第 I 章 発掘調査の経過

## 第 1 節 発掘調査の経緯

西春近地区の西部開発事業（県営畑地帯総合土地改良事業）は昭和 48 年度の上島、東方部落、昭和 49 年度の東方、村岡、城、山本部落にわたって行われてきた。昭和 51 年度は沢渡の上段（眼子田原）地区が該当しました。昭和 52 年度は南小出、宮の原、中村部落にかけて行われました。昭和 53 年度は柳沢地区と白沢、南小出地区が該当し、昭和 54 年度は諏訪形の菖蒲沢遺跡、山の下遺跡、南小出の南小出南原遺跡、細ヶ谷の細ヶ谷 A 遺跡が該当しました。

発掘着工以前に南信土地改良事務所より委託する旨が伊那市教育委員会へ通知されました。市教育委員会では、その件について承諾しましたので、市教育委員会を中心に、細ヶ谷 A 遺跡発掘調査会を結成し、この中に調査団を含めて業務を行うことにしました。

南信土地改良事務所長と市長との間で「埋蔵文化財包蔵地発掘調査委託契約書」を締結し、契約後、ただちに発掘準備にとりかかった。

## 第 2 節 調査の組織

### 細ヶ谷 A 遺跡発掘調査会

#### 調査委員会

委員 長	伊沢 一雄	伊那市教育委員会教育長
副委員 長	福沢総一郎	伊那市文化財審議委員会委員長
委 員	赤羽 映土	伊那市教育委員長
〃	向山 辻雄	南信土地改良事務所長
調査事務局	北村 忠直	伊那市教育委員会前教育次長
〃	三沢 昭吾	〃 教育次長
〃	石倉 俊彦	〃 社会教育課長
〃	有賀 武	〃 〃 課長補佐
〃	米山 博章	〃 〃 前係長
〃	武田 則昭	〃 〃 係長
〃	沖村喜久江	〃 〃 主事

#### 発掘調査団

団 長	友野 良一	日本考古学協会会員
副 団 長	根津 清志	長野県考古学会会員
〃	御子柴泰正	〃
調 査 員	飯塚 政美	〃

調査員	福沢 幸一	長野県考古学会会員
〃	田畑 辰雄	〃
〃	小木曾 清	宮田村考古学友の会会長
〃	春日 徳明	大正大学学生

### 第3節 発掘日誌

昭和54年12月25日 本日より細ヶ谷部落の南東地区にあたる細ヶ谷A遺跡の発掘調査に入る。この遺跡は今までに何も発掘調査らしきことを何も実施してなかったもので、遺物の集中地区、及び分布調査的なことを実施した。遺跡の集中しそうな個所をしぼることにした。本日、一日中、それを実施してみると遺物の集中しそうな場所は小戸沢川の南側になる可能性があった。小戸沢川は、現在は安定しているが、一たび雨が降るとかなりの水量に達する。

昭和54年12月26日 昨日の成果に基づきグリットを設定する。現況が桑畑なのでグリットを設定するにはきわめて困難であった。A1から掘り始めていくと、30cm位が耕土で、その下は山の押し出しによる礫の堆積や、青ネバ層で覆われていた。本日、一日中かかって耕土が割合に浅いため、予定していた面積の7割程は掘り尽してしまう。7割程度掘ったにもかかわらず、遺物の出土はほんのわずかなものであった。これだけではどうも遺構の可能性は希薄で、遺物は上からの流れ込みのような気がした。

昭和54年12月27日 本日は昨日に引き続いて、残りの3割を掘り尽してしまう、その状態は昨日と同様にそう大差はなかった。午前中一杯かかって終る、午後は写真撮影をしてあとかたづけをする。

昭和54年12月28日～昭和55年1月10日 遺跡の整理作業を行う。

昭和55年1月～2月 遺物の整理、図版作製、報告書の作製を行う。



(飯塚政美)

発掘風景

# 第二章 遺 構



第1図 発掘地点及び地形図 (1 : 1500)

今回の圃場整備地区内で大きな土地の移動する場所を発掘調査したが遺構の検出は何もみられなかった。他地区は大きな移動がないので、そのまましておいた。(飯塚政美)

### 第III章 遺物

#### 第1節 土器

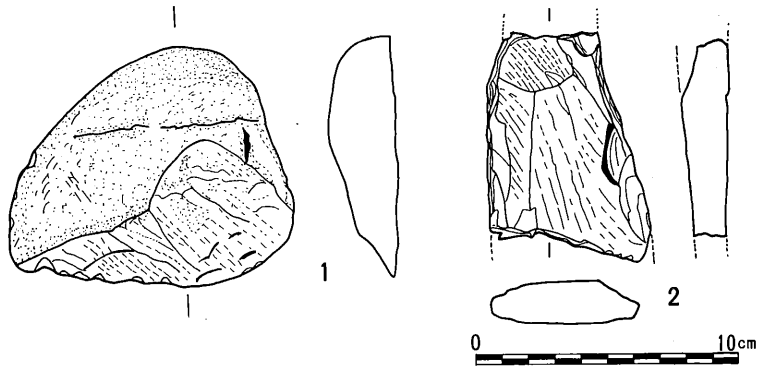
今回の発掘調査では土器の出土は何もみられなかった。

#### 第2節 石器

今回の発掘で出土した石器の総数2点である。(1)は横刃型石器であり、石質は硬砂岩を利用してある。刃部は下部にあるが、刃のつくり出しは雑で、あった。重さは260gを測る。

(2)は緑泥岩の打製石斧であり、上下部ともに欠損はしているが、推定するに下部が若干開らく撥形を呈すると思われる。残存している部分としては剥離が周囲全般に及び、その調整は丁寧であった。

(飯塚政美)



第2図 石器実測図

## 第Ⅳ章 ま と め

今回の発掘調査は西部開発に併なう土地改良事業で、事業地区内では大部分は現況のままにおいて、それらのなかに道路を整備して、いわば区画的な整理を行う計画となってきた。この計画に従って発掘調査も実施された。内容的には、土地造成の多い、道路敷だけを発掘調査して、他は、現況のままにおいておくことにした。

実際に発掘してみると、山麓からの押し出しが強く、また、発掘面積が限定されているという2つの面からして、わずかに数点の遺物出土という結果になった。

全面的な調査、あるいは押し出しの影響の両面から顧みての発掘の実施が可能であったならば、もう少し、成果が上がったものと思われた。

最後に南信土地改良事務所、地元土地改良役員一同、伊那市教育委員会一同、調査団の諸先生、作業員の皆様一同に対し、御礼申し上げる次第であります。 (飯塚政美)



遺跡地を南側より眺む



遺跡地を西側より眺む



グリット全景



グリット全景

図版2 グリット全景

南小出南原，細ヶ谷 A 遺跡

—緊急発掘調査報告—

昭和55年3月15日 印刷

昭和55年3月17日 発行

発行所 長野県伊那市教育委員会

印刷所 長野県伊那市下春日町  
(有)千代田印刷